

新年を迎えて

学校長 杉森伸吉

明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしく願いいたします。
菊の子の皆さんも、ご家族や親族等と、それぞれに充実した年末年始を過ごされたことと思います。

今年は5月1日より、新元号となるので、30年余り続いた「平成」も、残すところ4か月弱となりました。ちょうど4月からは新年度も始まり、新たな気持ちで、新たな環境で過ごすことになる方も多いと思います。今年度も、残すところ3か月となり、大きく成長した6年生には、今後のさらなる飛躍に向けて、学習活動や生活団活動、オペレッタなどにも思う存分活躍してもらいたいと思います。

5年生の皆さんは、いよいよ生活団のリーダーとして活動するようになる日に向けて、それぞれに期するものがあるかと思っています。団長になるかどうかは別としても、それぞれの皆さんが、それぞれの個性を生かしつつ、「なりたい自分」に必ずなれると信じて、活動すれば、それぞれの個性が生きる団づくりができると思います。

5年生だけではなく、1年生から4年生の皆さんも、お世話になった6年生が卒業するのを、祝福する気持ちと、今までのように会えなくなる悲しい気持ちと、両方あるのではないかと思います。6年生の皆さんも、4月からの新生活に向けた期待や不安、1-5年生に今までのようには会えなくなる寂しさなど、いろいろな気持ちがあると思います。6年生の保護者の皆様も同様の気持ちの方が多いのではないかと思います。こうしたことから、3学期は、とりわけ1日1日の生活を大切に、それぞれに悔いのないように、1日1日を輝かせていけるように、と願っていますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

ところで、昨年4月当初に始業式や入学式でお見せしたアボカドも、子どもたちから「アボ君」という名前をもらって、大きく成長しました。4月当初は20cmくらいだったのが、今は90cmくらいになり、茎も1本から3本になり、ようやく葉も出てきました。2学期は、1年菊組から6年ゆり組まで、それぞれのクラスをまわって、久しぶりに校長室に戻ってきたときには、大きく成長した姿に感動を覚えました。アボカドは、育てるのが難しい部分もありますが、とにかく、かなり待たないと発芽しないので、発芽することを信じて見守り、水を絶やさないようにしないといけません。これは、教育で人を育てるにも通じるものがあると感じます。「(自分自身も含めて)人を育てることは、裏切られても、裏切られても、信じ続けること」という言葉を、個人的には大切にしています。人は信じて栄養を与えれば成長する可能性があります。可能性を信じてくれる人(自分も含む)がいないと、育つ機会が奪われてしまうのではないかと思います。教育する側の思い通りにならないと、可能性を否定してしまいたくなるものですが、変化しないように見えても、かならず働きかけは目に見えないところで作用しているし、人間は誰でも芽を出し成長したい欲求を持っていて、誰でも成長できれば嬉しいものだとして、色々と工夫しながら働きかけること、成果を焦らず、しかし成長した姿を信じて、栄養を与え続けることが大事なのだろうと思っています。

3学期も、皆さんが「安心して希望が持てますように」、「冒険し、成長できますように」、「感動体験をたくさんして、心身ともに健全でありますように」、「どうにかなんと楽観して生きられますように」、アボカドを育てつつ願っております。

3学期もどうぞよろしくお願い申し上げます。